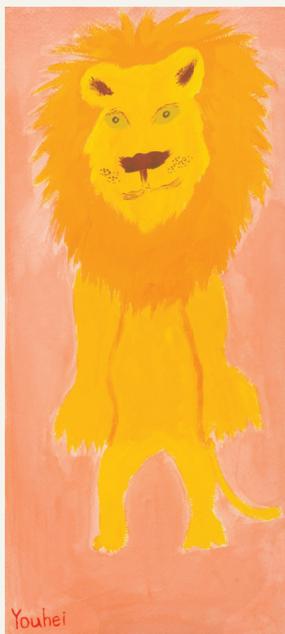


ひとつの縁が少しずつ広がり、出会うことができた



細木陽平 ・ 今田浩基 ・ 鬼頭純平

2024.6.5 WED  
—— 6.16 SUN  
10:00 —— 18:00

\*月曜休館  
\*入場無料

WOOD ONE  
ARTIST  
3人展

地元廿日市の企業に所属する多彩な若手作家によるグループ展

1. 細木陽平 《野兎とキツツキ》 2015年
2. 細木陽平 《跳んでるライオン》 2017年
3. 今田浩基 《にゃんちトピックス》 2022年
4. 鬼頭純平 《Beautiful world》 2019年

はつかいち 美術ギャラリー

〒738-0023 廿日市市下平良一丁目11番1号  
(廿日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあに併設)

主催: 株式会社ウッドワン (公財) 廿日市芸術文化振興事業団

 one's art

one's artは、障害のある人の雇用によってそのアート活動を支え、のびのびと才能を発揮できる場所をつくるプロジェクトです。わたしたちはその人それぞれに寄り添った柔軟な視点で事業を創出し、人と人、人と世界が出会う場所づくりを目指しています。この度は、one's artプロジェクトや障がい者アートの可能性を皆さまにお伝えしたいと思い、展覧会の開催にいたしました。ウッドワンアーティスト3人が描く個性あふれるアートをお楽しみください!



〈兎と鴨の物語〉2023年

## 細木陽平

HOSOKI Yohei

1993年 広島県生まれ 広島市安佐南区在住  
3歳児検診で知的障害の診断を受ける。幼少の頃から絵を描くことが好きで特別支援学校時代に油彩を学んだ。幼少期、おもちゃの向きを1個ずつミリ以下単位で調整し、並べていた。令和元年市民公募展「細木陽平《動物》絵画展」安佐動物公園動物科学館展示(63点)・広島市立春日野小学校鑑賞展示(11点)・広島市早稲田小学校賞展示(50点)等。油彩・アクリル絵の具・色鉛筆と画材や描画方法において、幅広く挑戦し、日常的にはマンガを描いている。作品のモチーフとなるのは、動物・植物・人物と幅広い。ディズニーランドとユニバーサルスタジオジャパンと料理と絵を描くことが大好き。東京コロニー・アートビリティ登録作家。

1989年 広島県生まれ 廿日市市在住

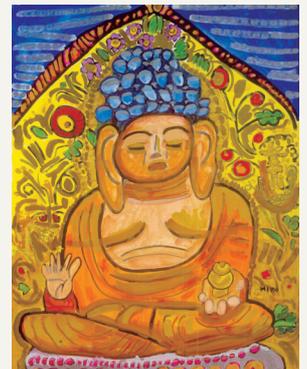
幼少期は言葉がほとんどなく、様々な事を心に秘めていた。小さい時からずっと「トムとジェリー」が大好きで、動物が好きだった。20歳くらいから絵を描き始める。ある時は手塚治虫の漫画「ブッダ」に興味を持ち、ブッダの教えを知り合った人たちに話し、仏像の絵を描いた。ブッダの「涅槃」の絵はとても穏やかな表情で見る人を魅了し、彼の優しさに包まれる。ある時はフクロウに夢中になり、フクロウカフェに通いフクロウの絵を描き、その魅力を会う人たちに伝えた。2019年頃から広島市内のカフェにいるねこの「にゃんち」の魅力にひかれカフェに通い、写真を撮影して、その写真を見ながら絵を描き2020年にはにゃんちの写真と絵をつづった絵本「にゃんち」を発行。

## 今田浩基

IMADA Hiroki



〈満足にゃんち〉2020年



〈薬師如来坐像〉2023年



〈DreamerA〉2021年

〈DreamerB〉2021年

## 鬼頭純平

KITO Junpei

1996年 広島県生まれ 安芸郡坂町在住

2歳の時、自閉症との診断を受ける。言葉はあまり出ないので、不快感を絵で表すこともある。いつも笑顔で人に接している。11歳から本格的に絵画活動を始め。洗練された線とスピーディーな描きっぷりが特徴的だった。18歳の頃コピーのマーカ―と出会い、新たな色の世界が生まれる。コンテスト会場でのアートパフォーマンスもこなす。数回の個展では、会場に来られた方々の似顔絵を描いてプレゼントしている。絵を描くことが日課となり、驚くほどの集中力で描き進める。以前は勢いのある線描が印象的だったが、最近は凹凸をデフォルメした、面白みのある作風となった。描く対象は、人間も含め生き物全般や植物など幅広い。広島県立美術館での個展では1500名を超える来場者数を記録した。



【会場】はつかいち美術ギャラリー

〒738-0023 廿日市市下平良一丁目11番1号

(廿日市市役所・はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあに併設)

TEL:0829-20-0222 FAX:0829-32-7160

【お問い合わせ】

株式会社ウッドワン



Tel 0829-32-3333 (担当:朝生・植木)